

株式会社ガゾウ 代表取締役社長 かねだ あつゆき
金田 篤幸 氏

視線解析システムやAIを活用し 人に関わる画像処理技術を追求する



PROFILE

1985年生まれ、新潟市出身。富山大学理学部生物学科を卒業。父親が経営していた株式会社マイクロビジョン 取締役社長を経て独立。2017年1月、株式会社ガゾウを設立する。2021年、新潟県が主導して県内のイノベティブなスタートアップ企業を集中的に支援する「J-Startup NIIGATA」の対象企業に選定される。

●主な所属団体

精密工学会 画像応用技術専門委員会 感
察工学研究会 新潟経済同友会 新潟市
DXプラットフォーム

画像処理のハードウェア・ソフトウェア開発技術を基盤に、視線解析やAIカメラを活用したさまざまなDXソリューションを展開するガゾウ。「面白いと思える技術やサービスを提供していきたい」という金田社長に、お話を伺いました。



株式会社ガゾウ

〒950-0964

新潟市中央区綱川原2-44-13 3F

TEL : 025-282-7212

<https://www.gazo.co.jp/>

ワクワクできる技術の開発は、私も社員もモチベーション高く取り組めるので、まず自分が面白いと思えるかどうかを大切にしています



人の視線やまばたきをリアルタイムに解析するメガネ型アイトラッカー。



包丁研ぎの視線分析。熟練者がどこを見て作業しているのか分析することで、若手の技術育成や訓練支援に活用できる。



マーケティングや技能伝承などの分析で視線解析システムの導入が進む

画像処理技術に特化し、ハード・ソフト両方の開発を強みとするガゾウは、金田社長が県内の画像処理会社から2017年に独立し起業。人がどこを見ているのかを導き出す同社のキー技術「視線解析システム」は、現在さまざまな分野に導入されている。

マーケティング分野では、消費者の視線を解析することで購買行動を分析し、商品パッケージや売場の陳列方法などの戦略作成時に利用。また、技能伝承において熟練技術者の視線を分析して、若手の育成に活用されている。「クリーニング店のベテランスタッフに録音機能付きのカメラを装着してもらい、解説しながらシミ抜き作業を行う動画マニュアルを作成した例もあります。ベテランが退職しても、会社の技術資産として残すことが可能です」と金田社長は語る。

遠隔地から作業をサポート。口腔ケア関連のソフト開発支援も

昨年からは、遠隔作業支援システム「リモサポ」の提供を開始した。これは遠隔地にいる人が、現場作業者の視界カメラ映像を見ながら作業の指示を行えるシステム。複数の現場を同時にサポートすることが可能で、生産性向上とコスト削減に繋がる。「指示システムを明確にするために作業者同士の会話はできないようにし、指示者の声だけが聞こえる仕様にしたのが特徴です」。

さらに今年4月には、口腔ケア関連のソフトウェア開発を行う会社と事業提携し、「口腔内炎症AI」の実用化に向けた支援を行っている。この製

品は口腔内の写真をもとに口内炎や口腔がんなどをAIが判定。同社が持つAIを用いた物体認識の画像処理技術を口腔内の検査に応用し、AIの精度を高めることで来年夏頃の実用化を目指している。

人を助け、人が創造性をより発揮できる技術を提供したい

同社は創業して間もなく新潟商工会議所のビジネス総合保険（※13ページ参照）に加入。「商工会議所の会員は保険料が割安になると聞いたのが、入会のきっかけです。また、県内各地の商工会議所さんから講演やセミナーを依頼されることがあり、これまで糸魚川や燕、三条などで技能伝承の事例などを紹介させていただきました」。

今後については「アイトラッキングや遠隔支援など、人が効率よく働くのを助けるための技術の開発を続けること。その一方で、人が注力すべきところに注力できるように、自動化に向けたAIの開発も進め、人の創造性をより発揮できる環境を整える。この2つのアプローチで、人のノウハウが見える化する画像処理技術を進めていきます」と金田社長。今後同社の技術がさらにどのような分野に活かされていくのか注目したい。



視線と脳波を組み合わせた購買行動分析。



AIを用いた交通量カウント。このAI・画像処理技術を、口腔内炎症AIに応用。人やバスなどを認識するのと同じ原理で、口腔内の異常を検知する。